平成25年６月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年２月14日

上 場 会 社 名	株式会社オウケイウェイヴ	上場取引所	名
コ ー ド 番 号	3808	URL	http://www.okwave.co.jp/
代　　表　　者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)兼元　謙任	
問合せ先責任者	(役職名)取締役経営管理本部長	(氏名)野崎　正徳	(TEL)03(5793)1195
四半期報告書提出予定日	平成25年２月14日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有（機関投資家・証券アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

１．平成25年６月期第２四半期の連結業績（平成24年７月１日～平成24年12月31日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年６月期第２四半期	773	6.5	△75	―	△68	―	△57	―
24年６月期第２四半期	726	△10.8	45	△42.4	45	△42.4	24	△18.3

（注）　包括利益　25年６月期第２四半期　△62百万円(―)　24年６月期第２四半期　19百万円(△24.1%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
25年６月期第２四半期	△6　74	―
24年６月期第２四半期	2　81	2　79

当社は、平成24年７月１日付で株式１株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して１株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円　銭
25年６月期第２四半期	2,603	2,004	74.4	224　96
24年６月期	2,336	2,018	86.1	234　10

（参考）　自己資本　25年６月期第２四半期　1,936百万円　24年６月期　2,012百万円

当社は、平成24年７月１日付で株式１株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して１株当たり純資産額を算定しております。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
24年６月期	―	0　00	―	250　00	250　00
25年６月期	―	0　00			
25年６月期(予想)			―	2　50	2　50

（注）　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無
当社は、平成24年７月１日付で株式１株につき100株の株式分割を行っております。

３．平成25年６月期の連結業績予想（平成24年７月１日～平成25年６月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通期	2,838	85.3	220	95.3	214	84.0	132	40.4	15　34

（注）　直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

４．その他

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：　有

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　　１社（社名：株式会社ブリックス）　　、　除外　　―社（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　有

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　有

④　修正再表示　　：　無

（注）　詳細は、（添付資料）５ページ「２．サマリー情報(注記事項)に関する事項　（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年６月期２Ｑ	8,607,000株	24年６月期	8,598,500株
②　期末自己株式数	25年６月期２Ｑ	―株	24年６月期	―株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年６月期２Ｑ	8,604,614株	24年６月期２Ｑ	8,596,679株

当社は、平成24年７月１日付で株式１株につき100株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

１．本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）４ページ「（３）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

２．当社は、平成25年２月15日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、速やかに当社のホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
2. サマリー情報（その他）に関する事項 …… 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
3. 四半期連結財務諸表 …… 6
(1) 四半期連結貸借対照表 …… 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 10
(4) 継続企業の前提に関する注記 …… 12
(5) セグメント情報等 …… 12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

①全般的概況

当第２四半期連結累計期間(平成24年７月１日～平成24年12月31日)におけるわが国経済は、輸出環境の改善や経済対策の効果などを背景に、再び景気回復へ向かうことが期待されていますが、海外景気の下振れが、引き続き景気を下押しするリスクとなっております。

このような環境のもと、当社ではインターネット関連業界におきまして、ソーシャルメディア・ソーシャルCRM・ソーシャルコマースを３本軸とした事業領域でサービスの提供を行っております。

当社は平成24年10月、大手企業・自治体への多言語コンタクトセンター導入をはじめとする国内最大規模の多言語事業を展開する、株式会社ブリックスを連結子会社化いたしました。これによりQ&Aサイトならびに FAQシステムのグローバル化・多言語化を推進していくほか、様々な形で多言語翻訳事業の展開を検討しております。

また事業面におきましては、主にソーシャルメディア領域ではQ&Aサイト「OKWave」のリニューアルを実施、ソーシャルCRM領域では「OKBiz Support Ver.7.3」の発売、ソーシャルコマース領域では株式会社ワーク・ライフバランスの小室淑恵氏の公式携帯サイト「小室淑恵のWLB塾」の提供を開始いたしました。

以上の結果、業績につきましては、企画・開発投資を積極的に行ったことから売上高は前第２四半期連結累計期間比6.5%増の773,581千円となり、営業損失は75,019千円とほぼ予定に近い着地となりました。下期以降は、販売体制が確立できたことにより、売上拡大を図ってまいります。

	当連結累計期間（千円）	前連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	773,581	47,273	6.5
営業損失（△）	△75,019	△120,203	―
経常損失（△）	△68,531	△113,556	―
四半期純損失（△）	△57,968	△82,103	―

※当第２四半期連結会計期間末において㈱ブリックスは貸借対照表のみの連結となります。

②事業別の概況

・ポータル事業の概況

ア．ソーシャルメディア(サービス名：OKWave,OKGuide,OKetter,ARIGATO,OKMusic)

ソーシャルメディア領域では、ソーシャルメディア運営による広告販売を行っております。

当第２四半期連結累計期間につきましては、サイト利用者の利便性・回遊性を高める「OKWave」のリニューアルや営業タイアップ広告・プレミアムアカウントの販売と販売体制の確立を行ってまいりました。

平成24年12月に行った「OKWave」のリニューアルでは、Q&Aコンテンツや実施中の特集を整理し見やすくしたほか、“アクセスが多いQ&Aランキング”、“回答のついた最新Q&A”など関連Q&Aコンテンツを多く露出し、ユーザのQ&Aコンテンツ活用がさらに増加するよう改修いたしました。またアクセス時のページ表示速度も改修前より約２割高速化いたしました。これにより、リニューアル後からサイト利用者が増加しており、現在も堅調に伸長しております。

またクライアントの商品を宣伝する際、Q&Aを読み物風にアレンジすることで、商品を分かりやすく紹介、浸透させる「営業タイアップ広告」やサイト利用者と企業が直接Q&Aをやり取りすることで、企業の製品・サービスの認知向上やファン形成を促進する「プレミアムアカウント」の販売体制を確立したことにより、売上が増加し始めており、今後、大きく収益拡大へ寄与していくと見込んでおります。

ソーシャル多言語Q&Aサイト「ARIGATO」におきましては、新機能を加えた大幅なリニューアルにあわせ、「OKWave ありがとう」に名称変更したほか、大人気作品「ONE PIECE」の最新映画「ONE PIECE FILM Z」にあわせて、５言語バージョンで「ONE PIECE」特製の「ありがとうメッセージ」が送れるといった利用者拡大に向けた取り組みを行ってまいりました。また米国子会社OKWave, Inc.の本社をカルフォルニア州パロアルトに移転ならびに組織変更したことにより、今後、海外における事業を推進してまいります。

連結子会社株式会社オーケーライフで運営しているソーシャル・ミュージック・サイト「OKMusic」におきましては、一般ユーザの投稿する楽曲からiTunes Storeと連動したメジャー楽曲に至るまで、1,400万曲以上の楽曲を視聴したり、感想をソーシャルメディアへ発信したりできるようになりました。また発行部数12万部の音楽専門フリーマガジン「music UP's」を「okmusic UP's」と名称変更し、大手CDストアや全国のライブハウスなどでの配布を開始したことで、知名度の向上が期待されております。本誌に掲載しているアーティストへのインタビュー記事やライブレポートは「OKMusic」上でも自由に閲覧することができます。

イ．ソーシャルCRM(サービス名：おけったーエンタープライズ,OKCorporation)

ポータル事業のソーシャルCRM領域では、創業当時より蓄積されたQ&Aデータベースを様々な形で企業に貸し出しするサービスの提供を行っております。

当第２四半期連結累計期間につきましては、企業の認知度向上を支援するサービス「おけったーエンタープライズ」においてクリスマス特集を行ったほか、サポート支援ソリューション「OKCorporation」の提案・導入を開始いたしました。

「おけったーエンタープライズ」につきましては、Twitter公式アカウントを運用する14の企業と「おけったーXmas感謝祭」と銘打って、おけったー利用者総計168名様にクリスマスギフトが当たるキャンペーンを実施いたしました。複数社で同一キャンペーンを実施することで、利用者が日常フォローしている企業以外へ興味喚起を促す仕組みとなっており、今回の企画においても成果を得ることができました。

「OKCorporation」につきましては、富士通株式会社や株式会社ジュピターテレコムへの提供を開始いたしました。提供開始以降、導入事例ができたことから、多くの企業からの関心が高まっております。今後は本格的な社員教育を行っていくことで、販売から導入までをスピーディーに行う体制を確立してまいります。

ウ．ソーシャルコマース(サービス名：myFave,Abilie,会員ビジネス)

ソーシャルコマース領域では、一般の方が個人間で知識やスキルを売買できるソーシャルコマースサイト「Abilie」、専門家に１対１で直接質問することができる有料携帯サイトやベストセラー作家の公式有料携帯サイトの運営を行っております。

当第２四半期連結累計期間につきましては、日本マイクロソフト株式会社と共同事業であるショッピングSNS「myFave」において、平成24年８月に正式オープンしたほか、「myFave」でしか手に入らないプレミアムな体験型ギフトを購入できる企画やiPhoneアプリの提供を開始いたしました。iPhoneアプリにつきましては好評を得ていることから、好調に会員登録者数が増加しております。

知識やスキルを売買できる「Abilie」におきましては、オーディオブック配信サービス「FeBe」と連携したことにより、約8,000本に及ぶ音声コンテンツの販売を開始いたしました。

有料モバイルコンテンツの配信におきましては、女性医師に相談できるサイト「kikimimi」、本田健氏の公式モバイルサイト「本田健の幸せな経済自由人」、近藤麻理恵氏の公式モバイルサイト「こんまり♪片づけレッスン」をそれぞれスマートフォン対応し、またワーク・ライフバランス株式会社社長の小室淑恵氏の公式モバイルサイト「小室淑恵のWLB塾」を新たに開設したことにより、堅調に会員数を増やしております。

以上の結果、ポータル事業の収益につきましては、当社が運営するソーシャルメディアの月間PVが前年同期の108百万PVより19%増加の129百万PVと伸長したことによる広告収益の増加、また株式会社オーケーライフを子会社化したことにより、業績は次のとおりとなりました。

	当連結累計期間（千円）	前連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	332,015	39,324	13.4
セグメント損失（△）	△70,056	△79,928	―

・ソリューション事業の概況

ソーシャルCRM(サービス名：OKBiz)

ソリューション事業のソーシャルCRM領域では、FAQ(よくある質問と回答)作成管理ソフトウェアをクラウド型CRMシステムとして、様々な企業ホームページ上へ向けて期間貸しをするビジネスモデルを中心に展開しております。

当第２四半期連結累計期間につきましては、販路やサポート体制、機能拡大を担ったアライアンスの強化や認識向上・改善を目的としたマーケティング活動を行ったほか、新機能を搭載した「OKBiz Support Ver.7.3」の発売を行ってまいりました。

アライアンスの強化につきましては、平成24年９月にエンタープライズ・クラウドコンピューティングの世界的リーダーである株式会社セールスフォース・ドットコムとプロダクト連携をはじめとする連携の強化を行い、また投稿監視のリーディングカンパニーであるイー・ガーディアン株式会社とトータルサポート提供に関する協業を進めてまいりました。これにより営業提案の幅が広がりをみせております。

またマーケティング活動として、既存顧客や現在取引のない企業様への認識向上・改善を目的とした大規模イベントを当社が主体となり開催し、1,000名を超えるお客様に参加いただくことができました。引き続き、当社主体以外のセミナーにも積極出展することで、新規顧客の発掘等を行っております。

機能面につきましては、対話形式で最適なFAQを絞り込み提示する機能、ならびに複数の運営者の表現統一を図ることのできる「類義語辞書機能」を搭載した「OKBiz Support Ver.7.3」を発売いたしました。

以上の結果、業績は次のとおりとなりました。

	当連結累計期間(千円)	前連結累計期間比	
		増減額(千円)	増減率(%)
売上高	441,565	7,948	1.8
セグメント利益	198,141	△14,387	△6.8

（２）連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(ア)資産

当第２四半期連結会計期間末における資産残高は、主に新規連結子会社の増加に伴う受取手形及び売掛金の増加により2,603,782千円（前連結会計年度末比267,206千円増加）となりました。

(イ)負債

当第２四半期連結会計期間末における負債残高は、主に新規連結子会社の増加に伴う買掛金の増加により599,109千円（前連結会計年度末比281,517千円増加）となりました。

(ウ)純資産

当第２四半期連結会計期間末における純資産は、主に利益剰余金の減少により2,004,673千円（前連結会計年度末比14,310千円減少）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べ217,501千円減少し、1,213,135千円となりました。また、各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(ア)営業活動によるキャッシュ・フロー

当第２四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、主に減価償却費の影響により、91,814千円の収入となりました。（前年同四半期は171,452千円の収入）

(イ)投資活動によるキャッシュ・フロー

当第２四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形・無形固定資産取得のための支出により、280,275千円の支出となりました。（前年同四半期は123,747千円の支出）

(ウ)財務活動によるキャッシュ・フロー

当第２四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いにより30,589千円の支出となりました。（前年同四半期は20,503千円の支出）

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年10月23日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

一部の項目について簡便な会計処理を適用しておりますが、重要なものはありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年７月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる、当第２四半期連結累計期間の売上総利益、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年６月30日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,130,637	913,135
受取手形及び売掛金	219,172	441,180
有価証券	300,000	300,000
その他	79,173	52,636
貸倒引当金	△8,660	△8,013
流動資産合計	1,720,323	1,698,938
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	66,558	86,499
減価償却累計額	△24,298	△37,272
建物及び構築物（純額）	42,259	49,227
工具、器具及び備品	408,279	423,387
減価償却累計額	△319,895	△334,093
工具、器具及び備品（純額）	88,383	89,294
有形固定資産合計	130,643	138,522
無形固定資産		
ソフトウエア	131,372	266,188
ソフトウエア仮勘定	75,184	29,197
のれん	13,681	173,077
その他	12,756	13,219
無形固定資産合計	232,995	481,683
投資その他の資産		
投資有価証券	50,583	40,640
その他	241,114	282,478
貸倒引当金	△39,082	△38,480
投資その他の資産合計	252,614	284,638
固定資産合計	616,253	904,844
資産合計	2,336,576	2,603,782

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年６月30日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,074	131,198
未払金及び未払費用	174,012	240,375
未払法人税等	20,531	5,777
短期借入金	－	99,000
1年内返済予定の長期借入金	7,188	3,900
賞与引当金	－	12,045
その他	52,189	69,062
流動負債合計	272,995	561,358
固定負債		
長期借入金	16,172	5,495
資産除去債務	28,425	32,256
固定負債合計	44,597	37,751
負債合計	317,592	599,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	966,521	969,439
資本剰余金	936,321	939,239
利益剰余金	122,255	42,791
株主資本合計	2,025,098	1,951,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△62	△25
為替換算調整勘定	△12,089	△15,253
その他の包括利益累計額合計	△12,152	△15,279
新株予約権	3,308	1,531
少数株主持分	2,729	66,951
純資産合計	2,018,983	2,004,673
負債純資産合計	2,336,576	2,603,782

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年７月１日 至　平成23年12月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年７月１日 至　平成24年12月31日）
売上高	726,307	773,581
売上原価	358,858	493,616
売上総利益	367,449	279,964
販売費及び一般管理費	322,264	354,983
営業利益又は営業損失（△）	45,184	△75,019
営業外収益		
受取利息	1,029	573
為替差益	－	4,711
貸倒引当金戻入額	600	660
雑収入	635	1,384
営業外収益合計	2,264	7,329
営業外費用		
支払利息	－	87
為替差損	1,944	－
雑損失	480	755
営業外費用合計	2,424	842
経常利益又は経常損失（△）	45,024	△68,531
特別利益		
新株予約権戻入益	－	473
特別利益合計	－	473
特別損失		
固定資産除却損	1,440	5,823
投資有価証券評価損	457	－
投資有価証券売却損	1,895	－
特別損失合計	3,794	5,823
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	41,230	△73,881
法人税、住民税及び事業税	30,249	1,297
法人税等調整額	△13,154	△15,858
法人税等合計	17,095	△14,561
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	24,135	△59,319
少数株主損失（△）	－	△1,351
四半期純利益又は四半期純損失（△）	24,135	△57,968

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年７月１日 至　平成23年12月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年７月１日 至　平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	24,135	△59,319
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△49	36
為替換算調整勘定	△4,572	△3,163
その他の包括利益合計	△4,622	△3,126
四半期包括利益	19,513	△62,446
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,513	△61,094
少数株主に係る四半期包括利益	－	△1,351

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年７月１日 至　平成23年12月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年７月１日 至　平成24年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	41,230	△73,881
減価償却費	120,777	130,164
のれん償却額	－	1,534
貸倒引当金の増減額（△は減少）	271	△1,248
受取利息及び受取配当金	△1,029	△573
支払利息	－	87
為替差損益（△は益）	1,944	△4,711
新株予約権戻入益	－	△473
固定資産除却損	1,440	5,823
投資有価証券売却損益（△は益）	1,895	－
投資有価証券評価損益（△は益）	457	－
売上債権の増減額（△は増加）	2,507	△3,107
未収入金の増減額（△は増加）	－	44,998
仕入債務の増減額（△は減少）	△1,374	△735
未払金及び未払費用の増減額（△は減少）	23,761	16,242
その他	△3,957	△5,905
小計	187,927	108,211
利息及び配当金の受取額	1,029	573
利息の支払額	－	△87
法人税等の支払額	△17,503	△16,883
営業活動によるキャッシュ・フロー	171,452	91,814
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△38,748	△36,564
無形固定資産の取得による支出	△68,761	△220,808
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△7,930	△18,124
投資有価証券の売却による収入	1,470	－
投資有価証券の償還による収入	10,000	－
事業譲受による支出	－	△7,700
長期貸付金の回収による収入	4,069	3,543
その他	△23,848	△621
投資活動によるキャッシュ・フロー	△123,747	△280,275
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	－	△13,965
株式の発行による収入	600	4,532
配当金の支払額	△21,103	△21,156
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,503	△30,589
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,516	1,547
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	20,684	△217,501
現金及び現金同等物の期首残高	1,389,208	1,430,637

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年７月１日 至　平成23年12月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年７月１日 至　平成24年12月31日）
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,409,893	1,213,135

（4）継続企業の前提に関する注記

当第２四半期連結累計期間（自　平成24年７月１日　至　平成24年12月31日）

該当事項はありません。

（5）セグメント情報等

【セグメント情報】

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間(自　平成23年７月１日　至　平成23年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ポータル事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	292,690	433,617	726,307	―	726,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	292,690	433,617	726,307	―	726,307
セグメント利益	9,871	212,528	222,400	△177,216	45,184

（注）１　セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

２　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間(自　平成24年７月１日　至　平成24年12月31日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ポータル事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	332,015	441,565	773,581	―	773,581
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	―
計	332,015	441,565	773,581	―	773,581
セグメント利益又はセグメント損失（△）	△70,056	198,141	128,084	△203,103	△75,019

（注）１　セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

２　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期連結累計期間（自　平成24年７月１日　至　平成24年12月31日）

該当事項はありません。